

# この街 あの人この人

## カタクリ自生地と里山環境を保全

### 風呂の前里山保存会 代表 中山美代子さん (喜多)



ロウバイ香る風呂ノ前に集まった保存会の皆さん (前列左から2番目が中山代表)

#### カタクリとの出会い

喜多にあるのどかな里山の谷津田沿いの道を辿っていくと、小さく開けた土地があります。ここ「風呂ノ前」地区でカタクリ自生地の保護などの里山保全活動を行うのが、「風呂の前里山保存会」。会を設立したのは、代表の中山美代子さんです。

活動のきっかけは、平成17年。友人とこの場所を散歩中に、ふと見つけた2、3輪の

カタクリの花。思いがけない貴重な花に驚く友人に、新潟出身で寒い地方に分布するカタクリを見慣れた中山さんは意外に感じたといいます。

後で調べると、温暖な千葉では、大規模な自生地は大変貴重であることを知りました。「なんとか自生するカタクリを保護したい」と、土地の所有者の承諾を得て、仲間を集め活動を始めました。

#### ひたむきな活動が実を結ぶ

主な活動は草刈りや枝打ちなど。急斜面での作業は大変です。それでも中山さんは「活動を始めた責任感もありますし、確かに大変ですが、リフレッシュできて、健康にもつながります」と前向き。

「自然は嘘をつかない」と中山さんが語るとおり、活動を続けるうち、カタクリをはじめ、ヒトリシズカやキツネノカミソリなど、里山に見られるさまざまな山野草が次第に花開くようになりました。

一時はカタクリが盗掘されるなど、平坦

な道のりではありませんでしたが、活動開始から14年目を迎えた昨年、環境保全への貢献が認められ、県環境功労者知事感謝状を受賞。中山さんは、「やっと認めてもらえるところまで来た」とその時のうれしさを振り返ります。



可憐に咲くカタクリの花

#### 里山の自然の豊かさを伝えたい

同会では、多くの人に風呂ノ前の豊かな自然を見てもらいたいと、自然観察会の開催や、訪れた人へ解説などを行っています。

もうすぐカタクリが春を告げる季節。年々増え続ける可憐な花のように、この里山に笑顔の花がたくさん咲きそうです。

#### 会員を募集中

問合せ 同会・中山 ☎(52)7487

#### 風呂ノ前のカタクリを見に行こう! いちほ いちはら自然教室~春の里山観察会~

3月30日(土)午前9時~午後3時・市役所集合 小学生以上先着30人(小学生は保護者同伴) 無料 電話で3月15日(金)までに申し込む。雨天時は3月31日(日)に延期

申込・問合せ 環境管理課 ☎(23)9867

## 市民特派員

### レポート vol.10



佐尾 特派員

#### 市原市・千葉市工場夜景写真展

先月、アリオ市原で開催された同写真展では、本市の製造業の中核を担う石油コンビナート群のきらびやかな姿に目を奪われました。



幻想的な写真が並ぶ

今や工場夜景は一つの観光資源。その素晴らしさを発信しようと、昨年市原市は、全国工場夜景都市協議会に加盟しました。

空気の澄むこの時期は絶好の夜景コンディション。皆さんも、お気に入りの工場夜景を探してみませんか。

詳しくは特派員フェイスブックで

問合せ シティプロモーション推進課 ☎(23)9821

## 防災コーナー 80

### 防災行政無線デジタル化工事に伴う無線放送の一時停止

下記の日程で防災行政無線による放送を一時停止します。停止期間中の災害情報の収集は、下記の方法でご確認ください。

停止期間 3月13日(水)午前10時~15日(金)正午

#### 停止中の災害情報の収集方法

情報配信メール、市ウェブサイト、市公式ツイッター、テレビのデータ放送(dボタン)、緊急速報メール(エリアメール)

その他 (1)夕方(午後4時58分)の定時放送と防災ラジオの放送も停止します。(2)3月15日(金)に試験放送を2回行います。(3)3月15日(金)から定時放送の曲目が『市原市民歌』になります。

問合せ 危機管理課 ☎(23)9823



## いちほら 歴史物語

### 120 いちはら文化財めぐり

#### 上総国分寺の瓦工房 南田瓦窯

#### 上総国分寺補修期の窯

今回は、上総国分寺の補修瓦を焼いた南田瓦窯を紹介いたします。

南田瓦窯は市役所近くの上総国分寺の南約200mにあり、昭和49年の発掘調査の結果、4基の平安時代の瓦窯や工房跡が確認されました。そのうち1基は、昭和54年に国史跡上総国分寺跡に追加指定され、住宅地の中に保存されています。

#### 最新型の瓦窯

確認された瓦窯の構造は、瓦

を焼く空間の床に廃瓦を数本並べて畔にし、この上に瓦を立てかけて焼く「有畔式平窯」。

畔の間に炎が通り、効率よく瓦を焼くことができます。平城京の瓦を造るために発明された最新技術でした。

当時の地方社会にとって、国分寺造営は未曾有の大建設事業で、多くの資材を必要とし、特に瓦は莫大な量が求められました。この大量の瓦造りに対応するため、都に倣って「有畔式平窯」を導入したと考えられます。

国分寺の造営は、仏教史上のみならず、都の瓦造りや瓦窯などの最新技術を導入した技術史



畔の上に瓦を詰めた状態で出土した南田3号窯

上も画期的なものだったので。瓦工房の実態が明らかに

南田瓦窯では、窯跡の他に粘土を採掘した跡や、粘土に砂を混ぜ合わせて貯蔵した痕跡も見られ、粘土の採掘、調査、瓦への整形、焼成といった連の工程が確認できます。これらの工程は、平安時代の文献史料「延喜式木工寮」にも記されており、地方の瓦工房でも、史料の瓦造りと同じ工程を踏んだことが考古学的に証明され、貴重です。

問合せ ふるさと文化課 ☎(23)9853